



2021年9・10月号

特集：Beyond 5G/6G に向かう！光通信技術

2020年に日本国内で携帯の最新規格5Gがサービス開始となった。謳い文句としては高速大容量通信（eMBB）、多数同時接続（mMTC）、高信頼・低遅延通信（URLLC）の3つが挙げられている。今後の研究開発の方向性はそのうえの性能となり、以下の6つの技術的要件が狙いとなっている。Extreme capacity, Extreme Low latency, Extreme massive connectivity, Extreme coverage, Extreme high reliability, Extreme low energy & cost（以上、Docomo 6G ホワイトペーパーより）。

無線技術としては目にすることが多いものの、そのインフラを支えている光通信技術に焦点の当たることは少ない。そこで、企画で取り上げることにより、光通信の進展も同時に不可欠であることを改めて知る機会としたい。

	特集タイトル	執筆者
1	特集にあたって	OplusE 編集部
2	5G/6G時代に期待される光NWの全体像 (IOWN, 光アクセス動向等含む)	NTT
3	仮想化光アクセスシステム	三菱電機
4	有無線融合エッジ・アクセスプラットフォーム	富士通／福井大学
5	大容量IFoF技術	KDDI 総合研究所
6	Beyond 5G/6G 無線関連技術	情報通信研究機構

※特集予定は都合により変更になる場合があります。